

目標達成計画

作成日：令和 6年 4月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	新型コロナウイルスから中止していた交流会が再開できずに、子ども達との関わりがほぼ持っていない。現状の感染レベル、感染対応に合わせて交流出来る形を考えていくことが必要と考える。	小学生や園児との交流の場を作る。	未だに新型コロナウイルスやインフルエンザなど感染症の対策は必要である。現状を踏まえた上での交流方法として、外での関わりやドライブでの見学などを提案し、交流会の場を小学校、保育園に提案する。	12ヶ月
2	7	身体拘束適正化検討委員会は開いているが、虐待防止の為の研修や見直すための委員会が開催出来ていない。慣れにより虐待になるような行動が起こっていないか定期的に振り返る必要がある。	虐待防止委員会の定期的な開催。虐待防止研修への参加。	半年に1回以上虐待防止委員会を開催する。地域の研修状況を調べて虐待防止研修があれば参加する。グループホーム内でも委員会の時に独自で研修を行う。	12ヶ月
3	13	新型コロナウイルス蔓延以降、認知症の研修への参加が出来ておらず認知症ケアを見つめ直す機会が持っていない。職員が成長できる機会を持ち、現状のケアを見直す機会を持つ。	認知症研修への参加をする。	順番に認知症実践者研修に参加してもらう。グループホーム全体で研修項目に取り組むことで職員一人ひとりが自分のケアを見直す機会を持つ。	6ヶ月
4	35	現状、避難訓練や防災訓練を地区の方とも合同で行い、消防の方に訓練を手伝ってもらったりしている。しかし災害の種類や大きさ、季節の想定など更に色々な想定をしての訓練が必要である。	前年度とは違った想定での防災訓練を行う。	地域の方と消防の方と協力し、AEDの練習や、持ち出し訓練の実地を行う。昼間の時間だけでなく夜間も通しての災害を想定し、発電機を用いての防災訓練を行う。	9ヶ月
5	33	現状入居時に重度化したときの方針をチームで話し合う機会を設けておらず、状況変化時にご家族と話し合う場を設けている。初めに、ご家族に受診対応をお願いする事や、急変時に救急車を呼んだ場合、病院に向かってもらう事を説明してはいる。	重度化への対応指針を明確にする。	職員間で重度化への指針を話し合う場を設ける。必要に応じて契約時に文書にて指針を決めるようにするが、あやめの理念の「歳をとっても地元で生き続けてもらう事」を念頭に話し合いを進めていく。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成してください。